

4 研究のまとめ

成果

本研究では、小学校図画工作科、中学校美術科において、児童生徒の見方や考え方を深めるために〔共通事項〕に含まれる造形的な特徴のうち、学習過程に形や色(色彩)を意識させる言語活動を取り入れました。

言語活動を取り入れるに当たっては、発達段階に応じた電子黒板・黒板・掲示物の使い方、ワークシートの作成の仕方、交流活動の仕組み方等を研究しました。

電子黒板・黒板・掲示物は学習過程の中で、目的に応じて使用したことで、児童生徒は常に形や色(色彩)を意識して課題に取り組むことができました。

ワークシートを児童生徒が、形や色(色彩)を意識して自分の考えが整理できるように工夫し、その後の交流活動では、ワークシートを基にした根拠を明確にした話し合うことや批評し合うことができ、児童生徒の見方や考え方を広めることにつながりました。

振り返りにおいては、形や色(色彩)を意識した交流活動を経て、自分の見方や考え方について振り返るようにしたことで、児童生徒の見方や考え方を深めることができました。

以上のように、小学校図画工作科から中学校美術科までを見通して、学習過程の中に形や色(色彩)を意識した言語活動を取り入れたことで、児童生徒は形や色(色彩)を意識して創造活動に取り組み、見方や考え方を深めることができました。

課題

児童生徒が〔共通事項〕の視点で、創造活動に取り組めるようにするためには、常に〔共通事項〕を意識した指導が必要です。発達段階に応じた資料の活用、ワークシートの工夫、交流活動の仕組み方等を今後も継続して探っていくことが大切だと思います。